岳精流日本吟院

ちよだ

第 61 号

平成 31 年 1 月

千代田岳精会弘報

平成三十一年指標

香気

「吟友呼び」と「交流」の一年へ！

会長　鈴木　精成

明けましておめでとうございます。

皆様お揃いで新しい年をお迎えのことと存じます。「平成」から新たな元号にかわる五月を控えて、また格別な感慨を抱いている年の初めです。思えば、昭和の終り頃（昭和六十一年）にスタートした我が千代田岳精会は、これまでの経過を「平成」とともに進んできたと言えましょう。

「千代田教場」として創設し「平成」の年の刻みとともに「千代田支部」「千代田岳精会」へと発展を続け今日に至っています。

「平成」を送り、新しい元号を冠して「千代田」の新しい歩みが始まるのです。

昨年は「昇伝審査会」での一九〇名の参加や、「全国吟道大会」への二二四名の合吟出場等、〝元気な千代田〟の結集がありました。そして、「武道館大会」では男子チームが堂々の合吟**「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」**（李白）を吟じました。結果はともかくとして、合吟チームの十七回にわたる練習で得たものは大きかったものと信じます。ブロック毎の「温習会」も夫々が工夫を凝らして取組んでいただき、充実した成果であったと思います。

一方では、昨年新しい「拠点」つくりへの動きも活発でした。年明け早々の二月の熊谷教場妻沼教室、そして十一月の桜ケ丘教場永山教室の誕生です。前途が期待されます。

迎えた新たな年の始め、「千代田岳精会」として次のようなことを中心にして、充実した年を期待いたします。

○年度スローガン

「千代田の和　吟友（とも）の輪

二〇一九　ゴー！」

○「吟友（とも）呼びの日」を定め、この日を中心にして新しい吟の仲間を迎える盛り上がりを実現しましょう。

・「吟友（とも）呼びの日」＝「一・四・七・十月の第一研修日」です。

・昨年もいくつかの教場で特に決めた〝教場体験〟〝見学日〟がうまくいきました。

・新しい仲間を迎えると教場に一層活気が生まれます。

○「層別研修会」を続け、お互いの吟力の向上と吟友の交流を進めよう。

・教場の研修とは違った体験が生きます。

○「自主研修会」へ積極的に参加しよう。

・いろいろな分野の六つの研修会が活発です。参加して得しましょう。

○ブロック毎の「温習会」を盛り上げよう。

久し振りの計画として「吟行会」について皆さんの意向を取り纏め中です。実現すれば意義あると思います。

新聞のコラムでこんな言葉を読みました。「なぜ？という問いに答えを与えようとして人は物語をつくる。幸せのなかに物語はない」

勝手な見方かも知れませんが、私たちの吟への取組みの中での悩み、教場拡充の課題は〝なぜ〟〝どうしたら〟との格闘の中から「答え」が得られるものかも知れません。

諦めないで、辛抱強く「物語」つくりに挑戦しましょう。

良き一年を！

秋の昇伝審査会
五二名が受審

師範及び奥伝以上の審査が秋晴れの文化の日にかわさき保育会館で実施され、延べ五二名とこれまでの最多受験者数でした。

内訳は皆伝二名、奥伝二一名、皆伝師範七名、奥伝師範二名、準師範十二名、七段八名でした。奥伝受審者は平成十九年前後の入会で、千代田設立二〇周年。教場の新設と会員二〇〇名達成を目指した時期の入会です。

お目出とうございます。

皆伝

野沢　龍寿（丸の内支部）
小林　龍真（草　　加）
田尻　映風（丸の内支部）
蒐場　一風（丸の内支部）
田村　瑠風（東陽町支部）
宇田川香風（銀　　座）
増子　梨風（銀　　座）
勝村　忠風（神　楽　坂）
橋本　隆風（神　楽　坂）
船津　英風（清　　水）
宮川　丞風（神　　田）
丸山　育風（ハザマ支部）
鈴木　政風（ハザマ支部）
関川　慶風（ハザマ支部）
松尾　瑞風（ハザマ支部）
犬飼　勇風（ハザマ支部）
石田　匠風（我　孫　子）

奥伝

浦谷　江風（新　　陵）
出水田鶴風（新宿　支部）
小柴　藤風（新宿　支部）
中野　陽風（新宿　支部）
波治　舞風（新宿　第二）
後藤　佑風（新宿　第四）
山口　龍央（丸の内支部）
八田　龍仁（丸の内支部）
菊池　龍駿（東陽町支部）
本荘　龍麗（銀　　座）
植村　龍翔（鎌　ヶ　谷）
徳本　龍治（清　　水）
池田　龍康（神　　田）
西山　定風（市　　川）
岡部　禎風（新宿　第二）
小山　洋山（丸の内支部）
藤村　惠山（桜　ケ　丘）
森山　仙山（清　　流）
宮野　幸山（東陽町支部）
高橋　喜山（調　　布）
細川　修山（清　　水）
櫻田　謙山（清　　水）
三好　弘山（中　　野）
小蔦　正山（中　　野）
二反田奉山（生　　田）
坂下　光山（新宿　第二）
宇田川静山（新宿　第三）

皆伝師範

奥伝師範

準師範

略、敬称

皆伝審査を終えて

丸の内支部　野澤　龍寿

十一月三日、かわさき保育会館で平成三十年度昇伝審査が行われました。今回は皆伝を受審する機会を頂き感謝です。

二十五年十一月に受けた奥伝師範筆記試験と異なり、皆伝の実技審査である。しかし宗家の前で吟ずることになり、緊張はマックスでした。それでも暗譜で吟じ、宗家にご注意を受けた誤読は一か所とまずまずの出来栄えと自己判断しましたが？

平成九年、先輩に声を掛けて頂き入会しましたが自分の再三の股関節の手術、平成二十年から四年半は姑の介護で休会と色々ありました。年数を重ねたが実力が伴わない現在、伝導・伝達の難しさを感じます。「吟の上達に近道なし」と言われていますが、これからも精進を重ねて流統の正しい吟を伝えていければと思っています。

ソーリオ（スイス）からのブレガリア山群　　星野久風（清水）

皆伝「龍」を戴きました

草加　小林　龍真

岳精流の吟に巡り合えたのは二十数年前。流統のなめらかな節調に魅了され、一生懸命勉強しました。雅号も真風を戴くまでになりましたある日、突然夫が病に倒れ、やむなく休会しなければならない状態になりました。縁あって千代田に移籍して復会させて頂きました。鈴木会長、岩崎先生方にご指導を頂き、この度**「山吹の里」**で受審、皆伝を戴くことが出来ました。

勉強不足か、なかなか思うように吟じられず不甲斐無いのですが、詩情を大切に吟じました。独り留守番をするのがやっとの夫ですが、私の教室に通う背中を押してくれます。

諸先生方には大変なお世話になり、この場をお借りして感謝とお礼を申上げます。身近な人には、吟は楽しい、正しい流統を勧めて行きたいと思っています。

長い歳月の研鑽の上に輝いた価値ある伝位「風」号

神楽坂教場長　勝村　忠風

この言葉に裏打ちされた数十年の想い、感無量です。思えば軽い気持ちで何かの趣味をと隣人に語り掛けたのが始まり、興味が徐々に湧き始めその気になっていた。不甲斐無い吟力にも恐れない気概を持ち続け、挑戦する先輩達に負けずと同様の吟力となる様に頑張ろうと誓ったものだ。欲とは怖いもの、自分から教場長を名乗り出た。

当初は仲間達を募り順風に思えた教場も波が立ち込め、何度も沈みかける。だが諦めたら去って行った仲間にも罵倒されかねない。やるしかない、継続がいつかは実り成果をもたらす。

振り返ると十二年「風」号の伝位、教場でも胸を張って蘊蓄の一つも何時かは語ることが出来るかも、誰にも文句を言わせない自分にきっとなる自信が持てるはずだ。

やっと手に入れた「風」号、昇伝審査を担当して頂いた幹事長家吉先生に「貴方はまだ若いですね、将来性ありますよ」と煽てのような暖かい言葉を頂いた。病気をしない体力を持ち続け、まだまだ先がある。最近多くの人に「詩吟を習っているのですか、腹筋が鍛えられて良いですね」と煽てられるが、過度に遠慮じみた言葉を返さずにいる今日この頃である。

奥伝審査に合格して

新陵教場長　浦谷　江風

十一月三日奥伝審査があり、下旬に合格したとの知らせを受けました。もともと音楽的センスが欠如していますから、今日まで苦労の連続でした。今後も同様の道を歩む事でしょう。

五年前に中伝免状を頂いた時、その大きさに度肝を抜かれた事を思い出します。今まであれほど大きな証状を手にした事が無かったものですから圧倒されました。箪笥の中に学校の卒業証書と一緒に大事にしまってあります。

今後は皆伝が目標ですが、米寿、卒寿を目指し健康に留意することしかありません。皆様の一層のご鞭撻、ご指導をお願い致します。

奥伝審査を受審

丸の内支部教場長　蒐場　一風

天候に恵まれ、秋空の十一月三日文化の日に「奥伝」審査を受審させて頂きました。

早いもので、岳精流に入会して十二年となりました。これもひとえに、諸先生方・諸先輩方のご指導の賜と深く感謝申し上げます。

審査当日は一五〇名ほどの受審者が集まり、園田先生の吟礼に始まり、宗家の挨拶となりました。その中に宗家の若き頃の話、教場への取り組み、教えることの大切さ、そして伝導と伝達の重要さ等々を教えて頂きました。

今後は、**「礼・節」**を重んじ**「真善美」**の心を持って学ぶことへの感謝を忘れず、世の為、人の為、吟友を迎える心を常に持って吟の向上に努めていきたいと思います。

また、これからは指導者として自己研鑽に努めて参ります。奥伝の資格に恥じない様に精進していく所存です。今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

奥伝審査に感謝

我孫子教場長　石田　匠風

この度、奥伝を受審するに至り入会以来十二年を数え、顧みると早いもので人生八十歳となりました。毎月一回、ハザマ支部教場で鈴木会長月例指導吟題の一つを会員の皆さんと勉強しながら、流統の**「真善美」**を少しでも理解出来たらと思う今日この頃であります。

絶句、短歌、俳句の詩文を毛筆にて模造紙に書き少しでも会員の皆さんと、詩の理解と吟詠のアクセント等を明確に、また詩情なるものを思い起こせないものか、作者の背景が少しでも吟詠の時に役に立てればと思っています。今まで知り得た事項を伝えることは難しいものです。まだまだ研鑽不足です。これからも諸先生のご指導を仰ぎながら気持ちを若く持って、詩吟により人生のリフレッシュ、感動を呼び起こす努力をしていきたいと思っています。

千代田岳精会の皆様に感謝申し上げます。

有難うございました。

奥伝審査について

神楽坂副教場長　橋本　隆風

この度、奥伝に挑戦ができ有難くお礼申し上げます。いつもはカラオケボックスでの稽古ですが、今回は近くの公園で蚊に刺されての稽古でした。挑戦を決めてから素読と吟は毎日と言っても良い程で、稽古もそれなりに仕上がった気持でしたが、当日は気持の高ぶりもあり、いつもの調子が出ず、先生の講評で息継ぎの指摘がありましたが、修得手帳には「吟を楽しんで下さい」とあり、ほっと致しました。

吟を始めて十二年程ですが、続けて来られたのは諸先生と仲間のお蔭と感謝致しております。

これからも岳精流の吟の伝承、伝導に努めるべく更に精進致す所存です。宜しくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

奥伝審査を終えて

ハザマ支部　鈴木　政風

私は千代田岳精会に入会させて頂いて十二年になりました。私自身よくここまで来られたと思っております。しかしその間に大腸癌になり入院そして手術をして癌を除去して頂きました(平成二十四年)ので以後六か月間休会しましたので詩吟の練習を殆ど出来ませんでした。九月頃からやっとお腹に力が入れられる様になったのでハザマ教場に出席出来るようになりました。今日まで詩吟を続けてこられたのも良き指導者、良き先輩そして教場の皆さんと共に詩吟が出来る楽しみがあるからです。特に私にとりましては頭の体操と健康保持のために一生続けてゆく積りでございます。

今回、奥伝を受審するに当たって指定吟題については勉強したつもりでしたが審査の園田精鵬先生・越智精麗先生の前に立つと緊張するものです。園田先生から「絶句と俳句一題を吟じて頂きますのでよろしいですか」と言われ、分かりましたと申し上げ、絶句は**「秋江」**を俳句は**「花の雲」**を吟じました。結果の講評では「絶句、俳句とも声が良く前に出ていて大変良かったです」と励まし言葉を頂きました。「しかし絶句を吟じた中で転句、結句の山で息切れが出たので、そこを確り勉強して下さい」とのご指摘でした。これからはそこに気を付けて練習してまいります。教場でのご指導お願いいたします。

奥伝審査

神田　宮川　丞風

美濃岳精会の則武精秀先生に林精吾先生を紹介され千代田岳精会神田教場へ見学に行ったのが十一年前、六十九歳の時でした。少々遅い詩吟との出会いでしたが、一生懸命真面目に勉強してきました。最初の雅号「泉」を頂いた時、林先生から「丞」の一字を頂戴いたしました。「泉」から「山」になり、この度「風」になった訳ですが、正直な所ここまで来られるとは思っておりませんでした。「山」がせいぜいであろうと思っておりましたから、望外の喜びです。

これからは更に自己研鑽に励み、共に学ぶ仲間を大切にし、かつそういう仲間を一人でも増すよう務めながら吟を楽しむつもりです。

奥伝を受審して

ハザマ支部　松尾　瑞風

私は退職後、運動のために剣詩舞を始めその後千代田岳精会の剣詩舞研修の創設時にご縁が有り入会しました。それ以降、剣詩舞と同様に吟詠にも魅力と奥深さに惹かれて楽しんできました。

この度、奥伝を受審し伝導伝達する立場を自覚しその責任を一層感じています。私の個人目標は「吟剣一如」であり、苦労しながらその実現に励んでいます。剣詩舞研修の運営者の立場からは、伴吟を通じて剣詩舞とコラボし詩吟の面白い一面を伝え、また当岳精会の諸活動との一体化を更に図りたい。

奥伝の交付基準は「漢詩などの吟詠の妙味を体得したと認められる者」と定められています。今後も諸先生のご指導を仰ぎ、奥伝に相応しい吟詠の修得を目指していく所存です。

雅号「風」を拝受して

清水　船津　英風

この度、奥伝審査を受審し無事合格し雅号「風」を頂きました。顧みれば平成十八年五月に、今年七月に亡くなられた望月輝風先輩と一緒に清水教場に入会して十二年があっという間に経過した感じです。この間指導を受けた諸先生、教場の先輩、同輩、後輩等よき仲間に恵まれて、楽しく過ごさせて頂きました。また、清水教場十五周年記念の佐原・湖東の旅行で私が幹事を務め、好評だったのが印象に残っています。

私も今年八十一歳となり、昨年区切りと思い役職も辞しましたので、今後は詩吟の奥深さを味わいながら更なる研鑽を重ねていく所存です。

吟なくして健康なし

ハザマ支部副教場長　犬飼　勇風

地元の小学校で開かれていた詩吟のグループに参加していましたが閉鎖されることになり、ガッカリしていた所、そのメンバーの一人がハザマ教場を紹介して下さいました。こんなに長くやることになるとは考えていませんでしたが、ついに奥伝にまでなってしまいました。

健康の為に始めた吟でしたが、確かに吟なくして今の健康は維持できていないと思います。ますます好きになった吟を吟友と共に盛り上げていきたいと考えています。

「風」を頂いた私

丸の内支部　田尻　映風

晴天に恵まれた良き日、全国から集まられた先生方に交じり私も「風」を頂けることになりました。十年余り諸先生にお尻を叩かれ、励まされ吟の楽しさを教わりました。心から感謝申し上げます。

図らずも五月から鹿児島支部のお手伝いをすることになり、主人も全面的に協力してくれることになりました。人生一八〇度方向転換でございます。新しいご縁を確りと繋いで、吟にゴルフに頑張ってまいります。皆様本当に有難うございます。

師範及び奥伝以上昇伝審査

ハザマ支部　丸山　育風

田舎の義母に会社勤務を終えたら、楽しいから詩吟を習う様に指導を受けていました。私もいよいよその年齢になりハザマ社友会に詩吟の会があり、岳精流日本吟院千代田岳精会ハザマ教場に入会手続きをして、平成十八年五月十日に詩吟修得手帳をいただき、月三回練習に出席、現在に至っています。

良い点は、ハザマばかりでなく他社の人達との交流と会話が出来て魅力です。今年の文化の日、本部の昇伝審査を受けるよう連絡を頂き受審いたしました。結果は判りませんが長い年月頑張ってきたことが良かったと思っています。

これからも、健康に十分留意して皆さんと仲良く楽しく岳精流日本吟院の発展に努めたいと思っております。来年は亥年で私の年です。

皆伝師範を受験して

副会長　山口　龍央

去る十一月三日、入会二十年の皆伝師範へ健康で続けられた感謝の気持ちを込めて受験した。

当日一五〇名の受審者があったが、千代田から五〇名の吟友がいたことが何よりも嬉しかった。準師範及び奥伝に三〇名以上千代田から参加していた。私が教場長をしていた時、入会して立派に成長し、同じ傾向の問題に並んで受審した姿は外の人には感じられないだろう大きな喜びを感じた一日だった。

昇伝審査は教場の、そして会の成長、発展を物語るものであり、教場の日頃の導入活動の結果をここで語っているのであり、本部も教場長に、会長に素晴しい成果と申し上げて欲しいと思いました。千代田岳精会立派です。心から拍手を送ります。

受審の仲間に感謝

神田教場　池田　龍康

平成八年、千代田岳精会に入会。お陰様で二十二年、この度皆伝師範を戴きました。入会当初は軽い気持ちで始め、ここまで続けられるとは思いもよりませんでした。勉強すればするほど難しい吟詠、もっともっと頑張らなくてはと思っているうちに時が過ぎました。

午前中筆記試験、午後は宗家の面接。宗家からは「これからも頑張ってください」と励ましのお言葉を戴き無事終了しました。今回、試験が終わって感じたことは我々千代田岳精会の素晴らしい仲間七名と一緒に受験出来たことです。この体験に心から感謝いたします。

亥歳爺のつぶやき

丸の内支部　八田　龍仁

家系的に短命で、戦中戦後の食糧難を経験している。昔から八回目の年男を迎えるとは思ってもいなかった。それでも現役時代、相当無理もしたが病欠ゼロで定年を迎えたのは家内の健康管理のお陰かと感謝している。

退職後に元上司の磯田精信先生や親友の前田道風氏の勧めで始めた詩吟が健康の基だった。昨年二十年目で皆伝師範に合格となったが、道を極めるには前途遼遠の思いがする。

転勤族で、子供達に小学校を三回転校させた反省から地域に関わって約三十年、何と地元の小学校の放課後保育のＮＰＯ設立に関わり理事長まで仰せつかった、児童との年齢差は七十歳以上。無報酬でも充実した月日に感謝している。

吟の道

清水教場長　細川　修山

今度、準師範の審査を受審し師範の重責を担うことになりました。思えば平成二十二年の春に入会してから八年の歳月が過ぎました。その間、教場での学習、各種研修会で先生方から辛抱強く、厳しく（時には褒められ）教えて頂きました。

これからは流統の基本を更に自己研鑽し、先生方のご指導を仰ぎながら吟力の向上に努力したいと思っています。そして先生方の教えを伝導伝達していくのが師範としての役割だと思っています。会員のみんなで共に学び、楽しい教場でありたいと念願しております

厳しけど　楽しく詠う　吟の道

準師範試験経緯

中野教場長　三好　弘山

朝出掛けには冷気を感ずる秋晴れの中、園田先生先導の吟礼と宗家のご挨拶に続いて試験が開始された。

配られた筆記試験問題を一瞥、想定内か、余り面倒な設問も無さそうなので一先ず安堵。文章を書くのが苦手なので作文はやや気が重い。一通り書き終えたら一時間程度経った様だ。

作文は余り訂正出来ぬので、見直しは適当に切

り上げそのまま提出。退室後、誤字に気付いたが後の祭り。

午後は面接、対話不得手の身にとっては落ちつかぬ時間。先程提出した答案をご覧になりながらの面接。途中「アクセントは分かるが、絶対音感が無いので音程の把握が不確かで困る」と申し上げたら「音感の高い人は周りに引き摺られ易いが、音感の左程でもない人は引き摺られることも少なく、自分の音程で吟じられるので詩吟に向いているかも」と慰めのお言葉。園田先生のお人柄でしょうか、面接試験というより、慰めと激励の面接の様で心穏やかに和んだ気分で部屋を後にすることが出来ました。有難うございました。

今後は師範研修を通じて得たものが、教場での助言に役立つようになれば幸いと期待しています。

準師範審査を受験して

新宿第二教場長　坂下　光山

昨年中伝を戴き、今年は準師範の受験資格があるということで受験することにした。私は昨年より新宿第二教場長を拝命しており、準師範になったからといって指導内容には変わりはないが、教場長として準師範の資格は持っておくべきと考えたからである。

事前に予想問題をご指導いただき、久し振りの試験勉強を始めたのであるが、記憶力の低下に愕然とした。自分の考えを述べる問題はそれほど心配しなかったが、下書きを作ってみると漢字が出てこない。特にパソコンのワープロ機能を使う様になってから自分で字を書かないので、この傾向が激しくなっている。吟題と作者の問題は暗記すればよいのだが、今覚えたことが出てこない。それでも一応真剣に勉強して会場に向かった。

結果は？受審者全員が合格とのこと！

ほっとしました。

中伝準師範を受けて

桜ケ丘副教場長　藤村　惠山

この度、準師範受験の機会を得ることが出来ました。継続は力なりをモットーに吟を続けてくることができ、ご指導頂いた諸先生、諸先輩、吟友のお蔭と感謝しています。

今迄は習う立場の受け身でしたが、これからは伝道、伝達する立場となり共に学ぶものと思っています。幸いまだ現役で仕事をしていますので一人でも多く声かけし、吟友の輪を広めてゆき、岳精流の発展、千代田岳精会に寄与出来るように精進したいと思います。今後ともどうか引き続きご指導賜りますようお願い致します。

準師範試験を終えて

中野副教場長　小蔦　正山

ひょんなきっかけから詩吟との縁を得て、教場の先輩同僚との楽しい時間を過ごして八年、規定の受験資格に到達しお陰様で今回何とか準師範の資格を戴くことが出来ました。

千代田岳精会鈴木会長はじめ諸先生、清水教場村上・徳本両指導先生方から吟を学ぶ楽しさと心のこもったご指導・サポートの賜物と感謝しています。また、やや難解とも言える吟の色々を楽しく心地よく共に勉強した教室の皆さんのバックアップにも助けられ有難うございます。

気持も新たに教場の後輩吟友の吟力アップと吟の楽しみを、機会を得て伝えていくことに努め、併せて岳精流準師範に値すべく自身の知識の幅と吟力の向上に精進し、多少でも吟を学ぶ喜びを広めることに貢献出来ればと思います。

準師範試験を終えて

丸の内支部　小山　洋山

吟歴八年半、吟の上達遅々として進まぬ身なれど先輩のご指導よろしきを得て、昨年十一月にお陰様で準師範の資格を頂戴しました。先輩にはお骨折り頂き有難う存じました。

これを機に各所に伺って吟を勉強すれば上々なのでしょうが、到底それは適いません。小生、脊柱管狭窄症の腰痛が酷く、自分の教場に通うにも四苦八苦している有様でこれから先、腰を騙し騙しで何時まで通えるか心配している始末です。

新年早々、威勢の無い話で失礼しました。何れに致しましても、今年もご交誼よろしくお願いいたします。

準師範を取得して

生田副教場長　二反田　奉山

この資格を頂いて良いものかというのが率直な心境です。まだまだ吟の本質すら知らない現状で吟の基本をもう一度見直し、後輩に少しでも役に立てるために、教場で会員共々勉強しながら吟詠指導、宗家信条「真善美」の悟得、会員が心身共に豊かな気分で楽しくなるような接し方ができるよう努力をしていきたいと思っております。

また、現在小さな教場のため、仲間を増やす努力を行い、会員皆で大声を出し気分爽快、心身若返りをはかり、全員が人生の充実感を味わえるような教場になればと考えております。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

岳精流本部人事

平成三十一年一月一日付

下條　信泉

◎広報部部員

千代田岳精会人事

平成三十年　九月一日付

◎清流教場長　森山　仙山
同　副教場長　加藤　雅泉
同　顧問　菅原　龍琴
◎調布教場長　村林　恵山

平成三十一年一月一日付

◎丸の内ブロック長　太田　龍翠
◎東陽町副ブロック長　花山　龍櫻
◎調布教場副教場長　高橋　喜山
同　塩月　崇泉
◎女子部部長　手塚　勝風
同　副部長　小柴　藤風
同　近藤　美山
同　石倉　美泉
同　顧問　菅原　龍琴
同　太田　龍翠
同　花山　龍櫻
同　橋本　淳風

教場長を受けて

調布教場長　村林　恵山

渡邊教場長突然の退会で急遽お引受けすることになりました。未熟な私、心に余裕もなく務められるか戸惑いばかりが先立ちました。

幸い調布の会員さんは知識も豊富で心強い方ばかりです。みんなの教室、自然体で明るく楽しく、調布らしい教場を皆さんのお力と知恵をお借りしながら一歩一歩行けたらと思います。

東陽町の先生、先輩方のご指導これから宜しくお願い申し上げます。

◆岳精流日本吟院千代田岳精会規約の改定が十一月幹事会に提案され承認されました。

（平成三十一年一月一日から発効）

提案確定により組織の名称が変わります。

◎幹部連絡会（幹事会を改称）

◎企画推進会議（業務委員会を改称）

平成三十年の温習会

一年の教場研修の成果を披露する研修会をブロック毎に実施しました。

・丸の内ブロック

十二月十三日（木）十三時～　七十名参加
明治安田ビルＢ１　第４会議室
終了後９Ｆで忘年懇親会

・東陽町ブロック

十二月十二日（水）十三時～　八十名参加
明治安田ビルＢ１　第４会議室

・中央ブロック

本年は実施しない。

・新宿ブロック

十月十六日（火）三十七名
全日通霞が関ビル

内容は温習会本来の①教場合吟②会員独吟・連吟・ブロック合吟が中心で、剣詩舞が演じられたブロックもありました。

教場開設

☆桜ケ丘教場永山教室

・平成三十年十一月三日スタート

・教室　多摩市永山一―五

ヘルプ永山３Ｆ（永山公民館）

第一・第三土曜日

十三時十五分～十五時四十五分

・アクセス　小田急線 永山駅下車

詩吟体験会として十一月十七日（土）に第一回を実施。多摩市広報、及び会員の知人で五人の出席があり、会員と合せて活気あるスタートとなりました。その後一名の入会が決まりました。

姉妹教室でも練習を始めました

桜ケ丘教場長　笠　泰山

当教場は会員十五名、丸の内支部教場からの応援隊六名、計二十一名で月二回の練習を行っています。皆さん素晴らしい方々で感謝・感謝の毎日です。

人数的にも限度オーバー、また会員各位の練習回数も増やしたく、新教室での練習を開始した次第です。

両教室のリーダーが連携を密にし、気兼ねなくお互いの教室への練習参加を可能にすると共に、両教室が協力してイベント開催等も行えればと考えています。新会員さんはこれからお誘いするわけですが、皆で力を合わせればと楽観しています。

会員各位のパワーが更に結集されることを楽しみにしています。

記念温習会

・平成三十年十一月二十二日（木）

十四時～　新陵教場

・平成三十年十月十四日（日）

十三時～　みなとみらい分室

新陵教場　五周年記念大会開催

新陵教場長　浦谷　江風

去る十一月二十二日に五周年記念大会を明治安田生命ビル９Ｆにて開催致すことが出来ました。当教場はハザマ支部教場の分室として鈴木精成千代田岳精会会長のご発案により開設されました。現在「新陵教場」十三名、「みなとみらい分室」十五名、合計二十八名の大世帯に成長致しました。ハザマ支部教場の萩原晴風教場長、鈴木政風先生はじめ宮野幸山東陽町支部教場長、石田匠風我孫子教場長の先生方のご尽力の賜物と感謝致しております。

練習は鈴木会長直々に、月三回各二時間二十分の吟詠教室と事前のコンダクター教室三十分を同時に実施頂いており、コンダクターの生徒は十二名に達しております。

今大会に臨み、⑴出来る限り自前で手作り⑵業務運営全員参画、を基本の考えとして全員一丸となって取り組みました。プログラムは、⑴全員独吟、⑵賛助会員独吟に続き、⑶新陵会員に縁の深い滋賀県をテーマに構成吟**『湖国・近江・滋賀を詠ず』**にチャレンジ致しました。五年目の節目として、私共にとって思い出深い良い記念となることと確信致しております。⑷最後にこれまでご指導頂いてきた鈴木会長はもとより磯田精信先生、岩崎精慶先生並びに山口龍央先生はじめ、諸先生方（合計十三名）のご来賓吟詠は流石に圧巻で、私達の記念大会は大感動の中に無事終了させて頂きました。

新陵教場としては今回の記念大会を契機として、今後ますます精進を重ね吟道に打ち込んでいきたいと念じております。お世話になった皆様方に深く感謝申し上げます。

開設記念温習会を開催

みなとみらい分室長　田川　行泉

十月十四日の日曜日の午後、ＭＭタワーズ・フォレシスホールで千代田岳精会幹部の皆様に加え新陵教場から賛助出演していただき、設立一周

年の温習会を開催しました。当日の午前中に近くの公園で開かれている「みなとみらい秋祭り」に鈴木会長とともに全員でステージに上がって西郷南洲作**「一声の仁」**を声高く吟じ、近隣の方々に入会を訴えました。

その勢いで温習会では、会員各位は絶句・俳句・律詩と得意の吟題を力強く吟じました。

みなとみらい分室は現在十五名となりましたが、そのうち四名は数か月の経験しかありませんでしたがそれぞれに立派に吟じ切りました。我々の吟に続いて新陵教場の皆様の賛助吟詠があり、最後に鈴木会長と千代田岳精会幹部の皆様からご助言を戴き、模範吟を示していただきました。

会員の多くは初めて耳にする素晴らしい吟詠に深く感銘を受けておりました。みなとみらい分室は昨年二月十一日の建国記念日に多くの方々に集まっていただきスタートしましたが、五月二十日に十二名の会員で正式発足し現在に至っております。その間、鈴木会長をはじめ千代田岳精会の皆様の暖かいご支援で無事一周年の温習会を開くことができました。心からお礼申し上げます。今後はこれを機に更に全員力を合わせて、吟力の向上に励むとともに吟友を増やして、千代田岳精会の発展に少しでも役立ちたいと考えております。今後とも暖かいご支援、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

年男・年女

今年の干支は
己亥（つちのとい）です。

年乙亥

東陽町支部　前田　道風

思えば明治生命丸の内本館七階講堂での詩吟教室を見学して爾来二十四年。見廻しても先輩、同期はめっきり少なくなり寂しい。

昨今は気持に躰が伴わず、現実を突きつけられている。素直に受け止めて忠実な患者として努めているが。

詩吟に出会えたことは、私にとって大きな感動であり喜びであった。いま在る自分を見据えて、詩作に吟詠に没入したい。常に挑戦があり、ときめきがある。

詩二題　　**前田　道人**

薬八種　頼りてけふも　咽たるに
　ドックの評価「良」に訝る
　　「歌誌かりん」より

生あるに　かまけて猫と　三尺寝
　　「句誌埋火」より

今日あればこその明日あり
眩しき明日に乾杯！

余生と思い

新陵教場長　浦谷　江風

片田舎に生まれながら、若い頃は干支について何の興味もありませんでしたし、知識もありませんでした。それが六〇歳を過ぎた頃からでしょうか、皆さんが興味ありげに話されているのを耳にして、あゝそんなものかと思い直しました。また、年賀はがきは必ず切手が干支のデザインものですから、否応なしに知るようになりました。と言ってもそこまでで、会話の中に「丁度一回り違いますね」とかで、年長者には「わー凄い」年少者には自分も年取ったもんだと思うようになりました。

ところが今回、原稿用紙を頂き、はたと考えました。やっぱり単に歳を取っただけだとしか思えません。何を書いたらいいんだろうかと。

「七度（ななたび）もの干支を廻りしこの我にあと一廻りの幸（かう）授からん」と歌を出してみました。でも、神様・仏様は足下を見ていらっしゃいますから、人生、如何ともしがたいものと思い、静かに生きていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

乙亥を迎えて

清水　渡邉　華風

「光陰矢のごとし」は私の人生にとりこれ程ぴったりとくるフレーズは有りません。今までの生き様で、考えていたことの半分程度しか遂行出来

なかったことが主な要因なのかも知れません。
詩吟は病と闘いながら何とか継続していき、三年後に九段位の認許を戴きたいと願っています。囲碁は地域の老人囲碁クラブで四段ですが、年二回のリーグ戦で勝率七割五分を三期連続達成すれば六段位に昇段出来ます。囲碁と合せて十五段位に挑戦しています。
教室の独吟では暗譜で吟ずるよう心掛けています。これは教えて下さる先生への感謝の気持ちと礼儀と心得ているからです。暗譜にはプレース・セルを活用しています。例えば**「山間の秋夜」**の起句の場合「夜色秋光共に一闌」の詩文を絵に描いて玄関から順に置いていきます。ドアを開けると突き当りに弓矢の矢が立てかけてありその隣の燭台に蠟燭が灯っている。下駄箱にシュー（靴）があり、廊下に上がると、銅板のロールがでんと置いてあり、舟尾の艫があった。その横に瀬戸内寂聴「尼」がにこやかに立っている。野菜や鮮魚を売っている市場があり、廊下の端に胡蝶蘭の鉢があった。これに節調を加えると完了するのである。
四月三十日に今上天皇が退位され、五月一日に皇太子さまが即位され、新年号が施行されます。十一月の昇伝審査を受け「龍」の雅号認許を切望しているこの頃です。

平成三十一年 年男を迎え

ハザマ支部　丸山　育風

十二支の由来
子、丑、寅、卯、辰、巳、午、羊、申、酉、戌、亥。十二支は今日生まれ年として知られていますが、昔は時刻や方角にも使い、夜中の十二時頃を子の刻、昼の十二時頃を午の刻と言うなどとても身近なものでした。午前、午後もここからきた言葉なのです。
中国では、本来動物ではありませんでした。それが後に子を「ねずみ」丑を「うし」と呼ぶようになり動物と同一視されたと言われています。生活に密着した物だっただけに誰もが何故十二支が出来たのか疑問を抱いたに違いありません。この「十二支の由来」もそうした過程で生まれた話なのでしょう。順番の由来と共に動物の特性が面白く語られています。ちなみに亥年生まれの人は裏表が無く、何事も熱心で且つやり遂げる情熱があるそうです。猪と言えば「猪突猛進」が浮かぶよう、その芯の強さが特徴だそうです。また猪は神の使いとも言われていて強運の人が多いようです。昔、ある年の暮、神様は動物達にお触れを出した。〃正月の朝御殿に来るように、来たものから十二番まで順番に一年ずつその年の大将にする〃
私も岳精流千代田岳精会に平成十八年五月に入会。はや十三年を迎えようとしております。詩吟は奥が深く大変ですが宗家信条**「真善美」**、岳精会会詩を常に基本として、日常頑張っております。今年十一月三日、師範及び奥伝以上の審査会があり、受審致しました。宗家の「月のことば」の内容を十分に理解して頑張ります。

短歌

みなとみらい　川島　明

色白の新入社員に一目惚れ、妻との出逢いもう五十五年。私は八十三歳になりました。
「人生百年時代」と言われて私達は今、以前と全く違う思想の大転換を迫られていますね。
「少しでも長く生きたいと思っているのですが一体どうすれば宜しいのでしょうか？」弟子の質問に親鸞は「ほう、そなたもそう感じるのか。実はこの私もそうなんだよ。ちょっと体調を崩すと、ひょっとして死ぬのではないかと心細い気持ちになるのだよ」と驚くほど率直に弟子の前に告白した親鸞に私も何故かホッとしました。
みなとみらいのマンションの掲示板で詩吟同好会の知らせを見て教場に入ると、二十五年前に習った岳精流だったので懐かしく、妻に相談するとそれは健康に良く腹式呼吸の発声に、心身向上に是非入会したらとの賛同を得て入会致しました。
鈴木会長の強烈な熱血指導と人徳に一目惚れ、それに加え田川教場長の品格ある碩学と指導力に二目惚れ、毎月二回の吟詠が楽しみの今日です。また、吟じ終わった後、吟友と生ビールで乾杯し熱燗でぐいぐい…これが又楽しみなのです。
一日でも長く生きたい親鸞の言葉を思い出し

ます。感謝、感謝につきます。

年男の思い

中野副教場長　湯浅　和山

今回の亥年は平成最後の年であり、新元号元年でもあります。卯年に入会し七年。先生・吟友の皆様には感謝するばかりです。一方、皆様のご配慮で雅号を戴いたのですが、声が出ず悶々としている昨今でもあります。入会当時の初心忘るべからず、詩吟習得心得にある「礼節をわきまえた態度」「常に謙虚な気持ちで、真面目に勉強」との原点に帰り取組んで行かねばと思っております。「腹から！前へ！」もう一つ考えたことは、会社人生を終え第二の人生をスタートした時に、果たして「家族の為に」を忘れてはいなかったか。遅ればせながら妻と一緒に居る時間を増やし、地域の老人会に妻と共に入会し、老人会のコンセプトである「健康に！楽しむ！仲間作り！」を妻と共に楽しむ様にしています。そして毎朝（目標三六五日）近所の水辺の公園で朝の健康体操（自彊術・二〇人前後）に参加し、近所の神社にお参りをし感謝の気持ちを伝え、家族の健康と安寧を祈願して一日が始まります。天満神社にある石碑一文を掲げます。

人の道

子供叱るな　来た道だもの
年寄り笑うな　行く道だもの
来た道　行く道　二人旅
これから通る今日の道
通り直しのできぬ道

（石塚五十夫　選）

六回目の干支を迎えて

丸の内支部　前田　春泉

ついこの間還暦を迎えたとばかり思っていましたが、あっという間に次の年女の年齢になってしまいました。

若い頃から、古希になったら働くことを止め、好きな事に打ち込んで楽しく過ごしたいと考えておりましたが、一方で正に無趣味で三日坊主でしたので、思い通りになるか、とても心配でした。しかし、七十歳直前に誘われて吟の世界に踏み込み救われました。声を出した後の爽やかさと、吟の奥深さに体力の続く限り続けてみようと思うようになりました。偏に、素晴らしい先生方と心優しく楽しい吟友仲間のお蔭と深く感謝しております。

昨年は雅号を戴き、今年は新しい元号になる年です。この機会に心新たに今まで以上の精進をして参りたいと思います。

友人、知人との長い付き合い

生田　石井　哲彦

七十を過ぎたこの頃の生活の中で自分の多趣味から友人、知人と過ごす時間の楽しさを身に染みて感じております。会社生活時代は厳しさの為か〝自分は他人と違う〟という間違った考えの為か、寂しがり屋の割に排他的な過ごし方をしておりました。しかし所詮世の中は一人で暮らせないことに改めて気付き、一八〇度考え方を変えてみました。まずはご近所の方々との接し方・付き合い方を見直し、出来るだけ挨拶をすることにしました。趣味の一つである剣道仲間とも積極的に話をすることを心掛けるようにしました。お陰で家の近所を散歩すると、必ず誰かに会う様になりました。〝自分が変われば世の中変わる〟を実感しているこの頃です。これからも未熟な私ですが皆様宜しくお願い致します。

「田吾作」さん

中野　矢崎　春泉

六回目の年男を迎えるにあたり、弘報部から寄稿要請を受けたので不思議な経験をお話します。

今から約四十五年前（日本経済が第一次オイルショツクで悲鳴を上げていた頃）東京から広島支店に転勤した。（勤務地は山陰地方のある県庁所在地で、大きな病院の建設工事で期間は約二年強）現地で事前に用意された社宅は武家屋敷街にあるリニューアルされた木造二階建ての旧家で広々としていた。二階の北側の窓を開けると五〇〇メートル程先の山の中腹に大きな墓地の見える立地で、二人所帯には贅沢であった。川崎の社宅から引越して二、三週間過ぎて少し落ち着いた

頃のある日、女房殿から不思議な話を聞かされた。（我が最愛の女房殿は若い頃は大変霊感の働く女性であった）女房殿曰く、最初から二階の八畳間は違和感を覚えて嫌だと思ったが、さほど気にせずに寝室にしていた。ところが夜中になると木製階段を人が上がってくる様な音がハッキリ聞こえて、寝ている女房殿の枕元に正座して上から覗き込む男が見える（容姿は坊主頭で作業衣姿、三十代位の小太りな体形）又、この時、私の寝ている側の部屋半分は真暗闇になっている、との話であった。以後二人の間ではこの人を「田吾作」と名付けて会話をしていた。私には階段の軋み音は聞こえたが「田吾作」さんの姿はとうとう見えなかった。何度も同じ現象があり、頻繁になって来たので上司に相談して別な社宅に移った。この広い社宅での生活は二か月位で退散した。今となっては「田吾作」さんは女房殿に何を伝えたかったのか？知る術もない。

年男の決意

新陵副教場長　西川　清悟

ご縁があって詩吟とめぐり合い、平成三十年末で二年半が経過しました。これまで、先生方から常々ご指導を受けている「腹から声を出せ」ということも、少し分かりかけてきたような気もしますが中々上手くいきません。

新しい年（平成三十一年）の干支は己亥で、小生は年男でもあります。そして年号が変わる頃（年央）には詩吟歴も四年目に入ります。これらを機に、あらゆる漢詩・短歌・俳句に対して常に「腹から声を出せる」ことを目指して精進を重ねたいと決意を新たにしております。

その結果としての「詩吟の上達」と「健康の増進」という二兎を追い求めて、猪突猛進していきたいと思います。

学園

新宿支部　小倉　孝之

私の幼少の頃、虚弱体質で医者通いが多く母を困らせていたようです。一番の原因は食物の好き嫌いでした。そこで母は私が小学四年の時、全寮制で金澤文庫にある区の学園に預けることにしました。一学年十名位、三年～六年生まで四十数名ほどです。

毎日が規則正しく、朝起床し布団をたたみ部屋を掃除、廊下の雑巾がけ、それから朝の体操、食事です。午前中の授業の休みにコップ一杯のおやつのミルク。昼食が済みまた授業、三時のおやつはキャラメル二つ。その後は、授業は終わり自由時間ですが宿題を終わらせないと夜の幻灯（まだテレビは一般的でなかった）を見せてもらえない規則ですし、日記は毎日書くことが日課でした。

入園して一番良かったのは、好き嫌いが無くなったことです。例えば朝食にご飯とみそ汁、お新香、卵焼きが出たとします。卵焼きが嫌いで残すと昼食に皆がカレーライスを食べているのに私のところには卵焼きが出てきます。残すと又夕食に出てきます。お腹が空いているので目をつぶってでも食べなければなりません。そんな日が続きました。

その後好き嫌いが無くなり、病気もせずに健康に暮らせたのも亡母、寮母さん、そして妻のお陰と感謝しています。健康は運動、食事、睡眠と言いますが、特に食事は大切です。私の好き嫌いを直してくれた大好きな学園に感謝しつつ、これからも元気で詩吟に猪突猛進してまいりたいと思っています。

…私の座右の銘…

整理整頓、即、実行…

詩吟には関係ないかも！

意気軒昂に過ごす

ハザマ支部　高岡　幸雄

昭和二十二年亥年生まれの小田原育ち、戦後の食糧難、受験戦争を経験しました。幼少期の思い出は箱根駅伝の風景です。急坂で止まった木炭トラックを全身で押す大学生と、全力で走る選手の姿に感動と忍耐を教わった記憶が残っている。今日までランニングを続けていることは、その影響が大と思っている。以来「団塊世代」と呼ばれ、高度経済成長の担い手として、約半世紀を建設業界で鍛錬出来たことに喜びを感じました。気が付けば昔の車は、今日では自動運転の開発が進み変革の速さに驚いています。

本年は新・年号の年であり、国の復興事業始め、最大のイベントを控えた重要な年に年男として参加できる事に感謝している。

幸いにして詩吟を学ぶ機会を得て、はや一年が経ちました。本年も良き先輩方のご指導を頂き、声の震えを直すべく今一度丹田に力を入れて、発声練習に励み、そして詠い、若々しく超高齢社会を楽しく過ごす事が出来れば幸いである。

ふる里川中島と吟友に逢えた秋…

神田　久保　正義

千代田岳精会に籍を置かせて頂いて五年になる。習い始めた原点はふる里川中島にある。千曲市（旧更埴市）を郷里に持つ在京のふる里サポーターの集まり「関東千曲会」をお手伝いさせて頂き十年になる。千曲会の先輩が川中島の合戦「雨宮の渡し」の郷土史を発刊された。（頼山陽自筆の書とその背景）総会では著者の講演と詩吟のコラボを企画、神田教場の有志が友情出演して頂くことになった。

吟二題「**不識庵機山を撃つの図に題す**」「**九月十三夜陣中の作**」の吟詠の後、神田教場の勧誘啓蒙を行い、最後に千曲市にゆかりの深い「**鞭声―粛々―**」を大合唱した。会場からは参加者の吟に合わせる声があちこちから沸き上がり大きな盛り上がりで幕となった。

翌日は全国吟剣詩舞道大会で、初めて武道館の舞台に立たせて頂いた。プログラムをめくると郷里長野県の女子チームが掲載されていた。休憩時間に出場者席を尋ねると、何と！中学時代の同級生が指導者の一人として参加していた。思いがけない四十年ぶりの再会となって、川中島の吟友に逢えた実り多い秋であった。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

第五十回 全国吟剣詩舞道連盟武道館大会

昨年、四位と惜しくも取り逃がしたトロフィーへの再挑戦と取組んだが入賞を逸した。

鈴木会長以下の指導を受け、十七回の練習を重ねた出場結果は非常に残念であるが、足りなかったところを確認して捲土重来を期待します。

なお、プログラムには無かったが、九十歳以上でご活躍の先輩が取材され、会場正面の大スクリーンで紹介された。千代田から磯田精信常任顧問、岩崎精慶常任顧問、村上龍道常任顧問、渋谷龍報顧問の四人がコメント付きで何度も映し出された。

全国合吟コンクールに参加して

新宿第二教場長　坂下　光山

第五十回という記念すべき全国合吟コンクールが去る十一月十日に日本武道館で開催された。千代田岳精会男子チームもこれに参加することになり、四月にメンバーが募集された。選択された吟題は李白の「**黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る**」で、早速五月十日から練習が開始された。

今回のメンバーの殆どが昨年第四位（男性だけをみればダントツの第一位）を獲得したメンバーであったのでかけられた期待は非常に大きかった。メンバーも今年は優勝したいという気持ちが一杯で、徳本龍治先生のご指導にも一層熱が入り、習う我々メンバーも非常に熱心で、全十七回の練習日を終えたときにはかなりの自信が感じられた。

いよいよ当日になった。朝の十時に靖国神社大鳥居の前に集合し、発声練習、数回の吟の練習、舞台への登壇の練習を行った後、会場へと向かった。我々の出番は四十四チーム中の四十三番目で、出番まで一寸待ちくたびれた感があった。

午後七時半、待ちに待った結果発表。まず入賞二十五チームの番号が読み上げられた。出吟番号二十番台は全部入賞。これでは四十三番が呼ばれる前に入賞が終わってしまうのではないかと心配していると、案の定最後の六チームを残して「これで終了」との無情の言葉。全員の落胆は大きかった。

結果はさておき、徳本先生をはじめ、鈴木会長、岩崎先生のご指導、毎回お世話をいただいた萩原先生には心から感謝し、今回のご指導が私だけでなくメンバー全員の吟力を大幅に向上させたと信じてこの駄文を終わらせていただきます。

《教　場　だ　よ　り》

芝大神宮秋季大祭奉納吟

清水　星野　久風

清水教場では芝大神宮の参集殿をお借りして

時折練習しているご縁から、今年も秋季大祭（九月十一日から二十一日まで続く通称芝明神のだらだら祭り）期間中の十三日、詩吟を奉納した。当日は十一時集合、練習をしてから十二時拝殿に参内。神官の祝詞奉上、お祓い、教場長の玉串奉奠のあと、各自神前でそれぞれが力一杯吟詠した。笹倉和江**「半夜」**、市倉妙泉**「不識庵機山を撃つの図に題す」**、神谷知山**「親を夢む」**、金岡博人**「青の洞門」**落合正泉**「母を奉じて嵐山に遊ぶ」**、矢崎春泉**「九月十三夜陣中の作」**、宮野信泉**「感有り」**、湯浅和山**「九月十日」**、小蔦正山**「半夜」**、三好弘山**「暑を山園に避く」**、山根敏男**「母を奉じて嵐山に遊ぶ」**、森兼康博**「雁を聞く」**、堀田宣山**「親を夢む」**、森坂雄山**「九月十日」**、櫻田謙山**「中庸」**、船津英風**「夜墨水を下る」**、渡邉華風**「山間の秋夜」**、星野久風**「鸛鵲楼に登る」**、細川修山**「望郷の詩」**、徳本龍治**「九月十日」**、最後に村上龍道の**「秋思」**で締めとした。吟詠中も拝殿前には参拝者が列をなして次々と拝礼し聴き入って下さっていた。今年は鈴木会長の参加がなかったのが淋しかった。

日常の楽しみ

清流　西川　規泉

毎日の暮らしの中で潤いや生甲斐となる楽しみを持てれば、それが充実した時を過ごす事につながると今から五年前の六十九歳の時に考えました。

当時の私の趣味と言えば旅行、ゴルフ、釣り位でした。しかし都会生活者の自分にとってそれ等は全て非日常の世界であり、これから歳を取っていくと難しくなる事ばかりです。それで、日常の生活の中で何か趣味が持てないかと考え、先ず思いついたのが絵画と囲碁でした。しかし歳のことを考えるとなかなか難しく、それがかえってストレスになるかもしれないと思いました。

そこで日頃漢詩をインターネットで検索して楽しんでいたところ、たまたま高校時代の友人が岳精流の詩吟を習っているということで即決して千代田岳精会を紹介してもらいました。漢詩は情感豊かに、それが二音節のリズムで構成されていると学びました。それを鑑賞すると何とも言えない心地よい気分になります。素読も楽しみの一つです。

さて、吟詠ですが私は耳が悪くなかなか音程が取れなく、初めはどうなることかと心配しましたが、五年を経てやっと雅号を取得するところまで来ました。これはひとえに清流教場の菅原教場長をはじめ諸先生方のご教授の賜物と深く感謝しています。漢詩にはまだまだ学ばなければいけないことがありますが、これからも詩吟を楽しみに精進して参ります。そして会員皆様のますますのご発展をお祈りしています。　謝謝

私のライフワークに

神楽坂　中都留　準

仕事の縁でご厚誼を頂いている勝村神楽坂教場長に、詩吟に関心を持っているとお話したところ、平成二十八年に開催された「千代田三〇周年記念大会」にお招きいただきました。そこで聴かせて頂いた詩吟に魅せられてしまい、自分も修得したいという思いが募りましたが、音痴の私に出来るだろうかと躊躇していました。しかし勝村教場長から「そんな事は気にしなくてもよい、誰でも一生懸命練習すれば上達する」と励まされ、二十九年一月に入会させて頂き、毎月二回通うことになりました。教場では、始めに合吟を行いその後に上位の方から順番に吟じますが、最後に私が吟ずると、どんなに下手でも全員で拍手してくれ、教場長や会から指導に来られた幹部の方、会員の皆様が温かい言葉で励ましてくれます。周囲の皆様の温かい励ましにより少しずつ上達し、三か月後の昇伝審査で三級を戴くことができました。二年目の今、一の頃から見ると大分上達したかなという思いもあり、いやちっとも上達していないという焦りもあり「喜び」と「がっかり」が交差しています。でも、詩吟を通じて素晴らしい方達にご厚誼をいただき、とても楽しく練習をしています。私のライフワークとして生涯続けたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

【新会員紹介】

◇桜ケ丘教場

西野　喜与衛氏（八月入会）

趣味は登山と柔道・合気道・空手の武道系を少しやりました、右寄りの硬派です。

京王電鉄グループで働いていましたが現在は年金生活者です。日本の美しいところを吟じられるよう、厳しくご指導ください。

森田　正子さん（九月入会）

九月から入会させて戴きました。ある所で詩吟を習い始めたと、吟じていらしたのをお聞きし、何故か私もと思いました。皆さまの吟声をお聞きし少々尻ごみしておりますが、私なりに頑張っていきたいと思っております。

◇東陽町支部教場

木暮　雅好氏（十月入会）

定年延長終了後、特にこれと言った趣味もなく、スポーツジムへほぼ毎日通う生活パターンでした。或る日、同じ職場で働いていた吉原さんから、詩吟の教室が楽しいと誘われて入会しました。奥さんからは「趣味が一つ増えて良かったね」と言う言葉を頂きましたが、また「五月蠅い」との一言も。

◇用賀教場

星谷　昌子さん（九月入会）

月々の宗家のことばを入会後三か月拝読いたしました。旬の言葉で改めて感じたり感動したり、うれしい気付きをさせて下さいました。

吟詠もスキー場らしい句が物沢山、日頃遠ざかっていたことが身近になり時間の余裕が出来た今、幸せを味わっています。

◇生田教場

青木　マツエさん（九月入会）

この度、二反田奉山さんより生田教場を紹介して頂きました。新宿、生田と見学を致したのですが、本当にこんな難しい詩吟とは思いませんでした。でも七十七歳、人生もう一度頑張って皆様のように練習をして詠えるように一日も早く皆さまに追い付きたいと思っています。

◇みなとみらい分室教場

山崎　勲氏（九月入会）

少年野球の指導をしておりますが最近体力に不安を感じていたところ、詩吟のお誘いをいただき吟詠の効用に期待して決心しました。

羞恥心を忘れて頑張ります。宜しくお願いいたします。

訃報

◆林　精吾氏（常任顧問・神田教場）

平成三十年九月二十三日逝去されました。享年九十二歳、昭和六十二年千代田教場へ入会されました。平成九年一月神田教場を開設され、新宿教場を分離。多くの会員の入会、育成に多大な功績を残されました。

また、総本部指導本部員も務められています。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆太田　龍箭氏（東陽町支部）

平成三十年十月三十日逝去されました。享年八十四歳、東陽町教場開設以来、教場、支部・会の幹部として活躍されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

今上天皇が退位されるので平成の新春は最後になります。我々と同世代で少年時代に戦争体験をされ、父昭和天皇の戦争責任を背負って日本の平和と国民の幸せを願って皇后とお二人で国内外を行動されたお姿が眼に浮かびます。本当にお疲れ様でした。

明治維新以来、我国は欧米列強の強欲な圧力に対抗して富国強兵を国是として戦い、第二次世界大戦で遂に国破れた後、平和憲法を制定し国は変わり、明治・大正・昭和と続いた戦争に初めて関わらない元号として、終戦から七十三年続いた。我々も、続く後の世代も平和を享受できる有難さを忘れてはならないと思う。文字通り平和が成った時代だった。

覇権を狙う超大国や、人間の幸せのためにある筈の宗教が憎しみ殺し合う。世界は今も渾沌としているなか、不戦の憲法を保持する誇りが続く人生でありたいと願います。

秋の昇伝審査受審者、年男・年女の皆さんから味わい深いご感想を沢山頂きました。今年もご協力お願い致します。

八田　龍仁